

再評価気運高まるフィリピン労働市場

丸紅(株) 交通・インフラプロジェクト部
交通・インフラプロジェクト課
課長補佐 佐藤 観

昨今、若いフィリピン人の潜在能力が、日系の製造業やBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)産業、欧米系の特に音声コールセンター業によって再評価されつつある。筆者は2009年～13年、フィリピンに駐在しており、10年ごろより再評価の気運の高まりを実感するようになった。その背景にあるのは、中国や他ASEAN諸国における(a)若年労働者の絶対数の不足、(b)賃金上昇率の高さ、(c)定着率の低さ、と比較したフィリピンの労働力の優位性である。

フィリピン投資を決めた要因 (最近の投資事例)

①中国華南地区進出済みの製造業者

中国華南地区では、特に単純組立・加工作業に従事するワーカーの確保が困難である。工場の安定操業のためにバスをチャーターして、毎月のように内陸部でワーカーをリクルーティングして工場まで連れ帰り、工場敷地内の社員寮に住ませる方法で対応している。しかし、彼らは周辺の高賃金を払う企業へ転職することが多い。

また、出身地言語の違いが原因で、ワーカー間で意思疎通の難しさが生じている。その結果、手間の煩雑さのみならずコスト上昇が収益を圧迫している。

一方、フィリピン・バタンガス州の場合には、工場周辺10km圏内にある自宅からワーカーが通勤するケースが多く、比較的容易に安定確保が図れる。

②中国華中地区進出済みの製造業者

高度な研磨事業であることで収益は確保できているものの、少しでも良い就業条件を目的に技術者の離職率が高く、せっかく技術を習得させても給与・条件次第で他の企業に移ってしまうことが多い。技の習得に時間を要する産業であるため、次世代への巧みの技の継承に不安を感じる。

一方、フィリピンでは研磨にかかる技術の蓄積は少なく、また下請け産業が成熟していると言いつても、ワーカーの定着率が高く、中長期にわたって巧みの技の継承が可能となる。

③ベトナム進出済みの製造業者

ベトナムは数年前と比べワーカー確保の困難さが緩和されつつあるものの、中長期にわたってワーカーを安定確保するためには、首都圏ではなく遠い郊外で事業を拡張する必要があった。フィリピンを選択して一国集中のリスク分散も同時に図ることを目指している。

④中東や南米にエンジニア派遣するサービス業者

大手自動車メーカーや建設機械メーカーが、フィリピンで人材開発センターを設立してフィリピン人エンジニアをグローバル技術員として育成している。2年程度の社内訓練を経た国家試験合格者を、一般フィリピン人に比べて高給で、中東の自動車メンテナンス工場や南米の鉱山現場におけるサービスエンジニアとして派遣している。同様に郵船会社がフィリピンに学校を設立し航海士を養成しており、今や世界中の航海士の3分の1